

日付	2015/4/25(土)	2015/4/26(日)	2015/4/27(月)	2015/4/28(火)	2015/4/29(水)	
引用元	UNORC	UNORC	UNORC	UNORC	UNORC	
災害の種類	地震 M7.8(震源の深さ15km)					
被災地域	ネパール共和国 ラムジュン群					
被害状況	死者数	700~1000	1900人以上→2288人	3351人	4358人	5006人 Kathmandu1039人 Bhaktapur250人 Lalitpur159人
	負傷者数	データなし	5000人以上→5850人	6833人	8174人	10196人
	行方不明者数	データなし	データなし	データなし	14人を瓦礫から救出した。	データなし
	被災者数 避難者数	首都カトマンズを含む WesternおよびCentral region の75中30以上の地域が被災	→ 多くの人が野宿で夜を過ごした	→ 39地域800万人が被災し、そのうち11の甚大な被害のあった地域に2万人が住んでいる。	被災者数810万人(予測) 男性4万人、女性4.1万人 5歳以下の男児39000人 5歳以下の女児36000人 65歳以上の男性22000人 65歳以上の女性22500人 家屋倒壊被害280万人(予測) 男性130万人、女性150万人 5歳以下の男児12000人 5歳以下の女児12000人 65歳以上の男性92000人 65歳以上の女性96000人	カトマンズValleyの避難者数 75000人(推定)
	避難所数	データなし	データなし	16か所	16か所	データなし
	家屋被害	特に歴史的建造物を含む建物の崩壊が目立つ。	データなし	データなし	640000戸	3673戸が破壊、7700戸が甚大な被害。初期予測では39地域で530000戸が被害を受けたとされ、今後増加の見込み。
交通アクセス状況	カトマンズとポカラの空港はオープンしているが、離着陸が混雑している。 カトマンズ郊外の道路状況は不明。	→ カトマンズ郊外の輸送用道路は全体的にアクセス可能。側道の崩壊によりアクセスが制限されている。	→ 被災地への主要な入口の混雑を避けるために、HSAをカトマンズ空港に設置。 到着していないUSARチームとFMTはスタンバイするよう通達(OSOCC)	→ カトマンズ国際空港は23時間主要Logistics hubPokharaとして開通しているが、物資や支援チームなどで空港は混雑している。PokharaとBirgunj空港の2カ所にLogistics hubを設置。	→ SARはいまだカトマンズ外で不足している。数か所の村は歩いて4~5日かけて到達時可能である。SARチーム輸送の燃料が不足している。被災者をKathmanduから東方のItahariや西方のButwalに移すため、地域の学校や組織はバスの運行を始めた。	
治安/環境	病院は混雑し、遺体で部屋は埋まり、緊急医療資機材は不足している。BIR病院は道路で負傷者を治療している。	→	→ 気象庁は今後10日間降雨を予測している。	→ 小規模の食糧雑貨店は開店。大規模の事業所や銀行はまだ閉まったままである。ATMは機能している。	→ 予備情報として、特にヒマラヤ地方と北部ネパールと丘陵地域にある地震の被災地域に地すべりのリスクがある。気象庁が予測している降雨により、これらの地域での地滑りのリスクが増加するだろう。	
ライフライン	水・食糧	備蓄に関して政府は明らかにしていない。	情報なし	140万人が食糧支援を必要としている。	12地区に優先して食糧支援が必要。事前のアセスメントによると、1か月約2万トンの食糧が12の被災地域の被災者を支援するためには必要。	350万人が食糧支援を必要としている。
	電気	情報なし	情報なし	市内の電気は不足していて、多くの家屋と役所は発電機に頼っている。	情報なし	情報なし
	ガス	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし
	通信・ネットワーク	情報なし	情報なし	カトマンズの携帯ネットワークは機能を維持している。同時にネットワークは供給停止と過負荷はまだよく起きている。	ラジオが基本的なライフラインでラジオ局が運営されている。メッセージを短波で頻りに送っている。国全体への放送を短波を使っているため、地域への情報が限定されている。	通信構造にダメージを受けていて、救援活動に支障が続いている。